

Keyword:「扇子」「伝統」「伝統工芸品」「現代技術」「融合」

1. はじめに

扇子は実用品として、また、芸術品として、日本で発明されて世界に広まった。私が扇子について探究し始めた理由は、風を送って暑さを和らげるだけでなく、装飾品や贈り物、作法や演出としての芸術さも持つ扇子に魅力を感じ、もっと知りたいと思ったからだ。

近年、簡単に手に入れやすい価格の扇子や携帯出来る扇風機などが増えてきている。扇子は昔から暑い夏に欠かせない携帯出来る実用品として、また、古くから伝わる美術品として、日本で生まれ、世界に広がって使われてきた。千年以上歴史のある扇子は、時代に合わせた絵柄や形、色合いやデザインの扇子が増えてきて、ファッションとして楽しむことも出来ることから、現在さまざまな年代から人気を得ている。一方で、伝統的な扇子の生産本数は年々減少していき、国内で生産されなくなる危機が迫っている。伝統的な扇子が減り続けてしまう理由には、素材の減少、職人の高齢化と減少などがあげられる。また、若い世代に技術が継承されないのも理由の一つである。

私が探究内容を発表した際、同じ高校生目線の扇子に対する考えや理想を聞くことができた。たくさんの意見をいただいて、伝統的な扇子の需要を上げるには、現代に適応させる必要があると考えた。

2. 序論

扇子は、伝統的な舞踊や儀式の演出にも活用される。舞踊団や歌舞伎の役者などが、扇子を使って劇中の動きや表現をより美しく演じることがあり、色彩豊かな扇子や図柄が特徴的だ。そもそも扇子の最も基本的な用途は、暑い時に涼を取るために使うことである。扇子を開いて風を送れば、涼しい風が顔や身体に当たり、快適な気分になる。そのような実用性以外の点においても、扇子は日本の伝統工芸品として人気があり、観光地や伝統工芸品のお店で様々な種類の扇子が販売され、お土産や贈り物としてとても喜ばれる。

扇子は、美しいデザインや柄が施されていることが多く、そのまま室内のインテリアや装飾品としても使われる。壁にかける、飾り棚に飾る、あるいは装飾としてテーブルや棚に置くなど、おしゃれなアクセントとなる。プロポーズや特別なイベントでの演出にも扇子が活用されることもある。扇子にメッセージや写真を印刷して贈り、感動的な瞬間を演出することができる。これらの用途に加え、扇子を自分のスタイルに合わせて持ち歩くこともできる。暑さ対策や個人の好みに合わせて、様々なデザインや素材の扇子が販売されている。

扇子のメリットは、手で扇ぐことによって風を起こし、真夏の暑い日に涼を感じることができる。手持ちの小さなサイズのため、持ち運びが容易である。伝統的な扇子は軽くてコンパクトなので、バッグやポケットに入れて持ち歩くことも可能だ。さらにデザインや模様が美しく、装飾品としても使用できる。上で述べたように、伝統的な扇子は芸術的なデザインや模様が施されており、インテリアの一部として飾ることもできる。

デメリットは、扇ぐことで作られる風は、比較的弱く効果が一時的であることだ。伝統的な扇子で扇ぐことで生じる風は、風量や風速が限られており、直接的な冷却効果は一時的になってしまう。伝統的な扇子は手で扇ぐ必要があり、一定の動作による手間や疲労を伴うため、長時間継続的に使用するには向いていない。また、風を起こしている間は、周囲に扇子の音が響くことがあるため、伝統的な扇子を使って扇いでいる間は、風を起こすことによる音が響き、周囲の静寂や会話に影響を与えることもある。

以上が、扇子を使用するメリットとデメリットであり、使用目的や好みによって、どのような特徴が重要かを考慮することが大切だと考えた。

3. 本論

上で述べたデメリットやいただいた意見の中に、扇子は自分の手で仰ぐ必要があるから持ち歩くことのできる扇風機、いわゆる、ハンディファンのほうが楽に快適さを感じられるといった意見があった。確かに仰ぐ動作に不便さはあるかもしれないが、反対に、電池や充電などの電力が必要となることから環境への配慮に欠けている点に気が付いた。扇子を手で仰ぐ動作を自家発電と捉えることができれば、環境に対するメリットとなるに違いない。

社会や経済に大きな影響を与え、私たちの生活に深く根付いた現代製品を否定することは、現代の技術の発展を妨げることとなる。また、現代の扇子が広まれば伝統的な扇子への興味へと繋がることもあることから、現代製品を完全に否定することはできない。

現代の扇子を否定することはできないことから、現代のニーズに合わせた技術やデザインに、伝統的な要素を保持させながら取り入れて活用することで伝統と現代を融合させ、両立を促進させることが重要である。伝統と現代を両立させるにあたって重要なことは、伝統文化を失うことなく現代に適応させて進化に繋げることである。それを実現するには伝統的な扇子の美しさを基に、より機能的で実用性に優れた製品にアレンジしたり、新たな製品やデザインを生み出すことが求められる。

扇子をはじめとした伝統を今後も大切にするためには、若い世代に伝統的な技術や文化に触れる機会を提供し、理解や関心を深めることが必要である。さらに、伝統工芸品を現代のマーケットに合わせて販売するなどのビジネスとしての側面にも力を注ぐことが、より多くの人に興味を持ってもらい、購入してもらえ、両立の促進にも繋がる一つの方法だと考える。オンライン広告やSNSを活用して、伝統的な扇子の魅力を広めることで、購買意欲を喚起することもできる。また、伝統工芸品をインターネット上で販売することで、販売機会を増やすことができ、世界中の人に手に取ってもらうことが可能になる。これらのアイデアを組み合わせ、両立を促進させることで、伝統的な扇子の需要を上げることができると考えた。

4. 結論

これらのことから、伝統的な扇子に限らず伝統工芸品を守って残していくためには、より沢山のの人に興味を持ってもらうことが重要であると私は考える。貴重な文化遺産を継承していくためには、新しい世代の関与が必要不可欠となる。

また、職人を支援し、制作の場や販路を提供したり、制作に必要な材料や道具の調達もサポートして環境を整えていくことも必要となる。

若い世代に伝統工芸品の魅力や技術を伝えて広めるためには、学校やコミュニティでの教育プログラムやワークショップを開催し、充実させていくことが普及活動として効果的になる。展示会やイベントを開催することで伝統工芸品を活用した地域おこしや観光振興にも繋がる。

様々な世代や職業と連携して活動することでできる人間関係がそれぞれの興味と関心に繋がりを、伝統文化に対する相互支援や保護意識にも繋がると考えた。時代の進歩に合わせて製品を生み出したり、インターネットを活用するなど、様々な面で融合させることで、より誰もが手に取りやすくなる。また、それを実現させていく中で改めて気付かされる伝統的な扇子の美しさや魅力を発信することで日本国内に留まらず興味を集めることができ、需要も上がると期待できる。

自分自身の興味や関心に基づいて、職人だけでなく、様々な世代や職業、その地域との連携を強めていくことで伝統的な扇子の未来を支えることができると考えた。

5. おわりに

価値観や捉え方は人それぞれだが、現代技術ばかり頼って生活の中での便利さや快適さを追求するのではなく、伝統文化の美しさや扇子だけに限らない工芸品独自の魅力に気付き、より興味を持って欲しいと思った。同時に、歴史や伝統文化に触れ尊重する考えを劣らせることなく受け継いでいかなければならないと実感した。

世代を超えて伝えていかなければならないこの先人の知恵と技術は、変えることなく未来へ届けることが何よりも大切となる。現代技術を上手く取り入れた先で私たちにできることの最善は何か、得た知識や考えを無駄にせず、これからも探究していきたい。

6. 参考文献・出典

日本の伝統文化を現代の日本に生かすためのデザイン研究
—製品デザインにおける「古今融合」に着目して—

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssd/63/0/63_78/_pdf/-char/ja